

# ONE WORLD

Info

英語教育 通信

**特集：英語科におけるActive Learningとは**

英語教育とアクティブラーニング … 松本 茂

英語科におけるActive Learningのすすめ … 金森 強

英語科におけるアクティブ・ラーニング ～長期目標を見据えて～ … 土谷 匡

**小学校外国語活動** 小・中学校の教員をつなぎ、学びを拡げる … 中西 浩一

つなげたい！ 英語活動にかかわる人たちの想い … 杉浦 栄美

**連載** とっておきの英語10 You've got a helluva kid here. … 野田 小枝子

今ドキ英語事情 The Silver Screen: Laughter and Tears … Peter J. Collins



## 英語教育と アクティブラーニング

立教大学グローバル教育センター長

松本 茂

### アクティブラーニングとは

アクティブラーニングの定義には様々ある。本稿では、溝上（2015）の「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」という定義を採用する。

このアクティブラーニング（以降、AL）だが、諸外国の大学では1990年代から提唱・実践されてきた教育方法である。日本では大学教育の改善のひとつの切札として、10年くらい前から徐々に広まりつつある（詳しくは河合塾編（2011）を参照）。しかし、ALという言葉が教育者の間で広く知られるようになったのは、教育の質的転換を求めた2012年8月の中央教育審議会（以下、中教審）の答申からであろう。

### 次の学習指導要領

現在、次の学習指導要領の改訂に向けて、中教審で中学校・高等学校の指導の在り方について議論されている。そこで頻繁に取り上げられているのが、ALである。

主に高等教育の授業改善に用いられてきた教育方法が一定程度の効果があつたことに加え、世界の初等中等教育において、teaching（指導）よりもlearning（学習）を重視することで成果をあげていることなどから、日本の小中高校における指導においても、アク

ティブラーニングを取り入れようという動きに追い風になっているものと思われる。

また、日本の主に中等教育において、次のような授業が（主に英語科以外の教科において）多いとの認識がいっぽうにある。

教員が板書しながら、授業時間のほとんどを自分で解説し、ときどき生徒を指名して、知識力を試す質問をする。生徒は分かれば答え、分からなければ「分かりません」と言えばすむ。そして、ひたすら板書されたことをノートに取り、記憶する。教員によって説明されたことが、どうしてそうなるか（そうなったか）ということは考えず、事実をひたすら覚える。そして、その知識が実生活でどのように活用されるかということは、教員も生徒にとってもどうでもよく、定期試験で良い点をとる（とらせる）ために、この作業を再生産していく。

このような授業を変えるひとつの方法として、ALに注目が集まっている。つまり、生徒が主体となって活動をしながら学び、単なる知識を覚えるだけにとどまらず、学習項目について考察・探究を行う。そして、書いたり、発表したりする活動を通して、言語力やコミュニケーション・スキルを向上させようとするねらいがある。

### 目新しくないアクティブラーニング

ALという言葉を使っていないものの、じつは現行の学習指導要領においても、すべての教科において思考力・判断力・表現力の育成が重視されていて、生徒主体の活動が求められている。その点では、ALという教育方法はとくに目新しいことではないと思われる教員も多いことであろう。

例えば、小学校の教科書には「話し合い活動」や「ディベート活動」が取り上げられ、ほとんどの小学校において生徒たちはこういった活動を能動的におこなっている。

しかし、学年が中学、高校へとあがるにつれて、前述したような教員主体の授業が毎日

繰り返されているケースがまだまだ多い。例えば、以前から実施されている「総合的な学習の時間」は、ALを実践する時間であるはずだが、そうでない学校も多いようだ。

昨年度から始まった生徒の探究学習を重視したスーパーグローバルハイスクール(SGH)の事業もある意味、ALという教育方法を推進するための一つの推進力として導入されたと言ってもよいだろう。

## 英語科とアクティブラーニング

中高の教科の中で、ALを一番すんなりと受け入れられるのは英語科の教員であろう。

例えば、高等学校の学習指導要領解説英語編(2009)では「授業をコミュニケーションの場」と規定しているくらいである。実際のところ、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、討論といった生徒主体の活動を展開している率は年々上がってきている。

さらに、各年次の到達指標をCan-Doの形式で設定したうえで、定期試験の点数の評点に占める比率を下げ、パフォーマンス評価を重視しつつある学校も増えている。

このように、ALと英語科の教育方法は親和性が高く、ALという視点からすれば先進的に取り組んできた教科である。

しかし、現状に甘んじることなく、英語教育の改善をさらに進めるために、ALという視点からもう一度授業を見直したい。というのも、公開授業などを拝見すると、形式は生徒主体だが、その内容は文型などを定着させるための活動が繰り返されていたり、正答がある課題だけを与えていたりして、生徒の思考が伴っていない(深化していない)ケースが珍しくない。

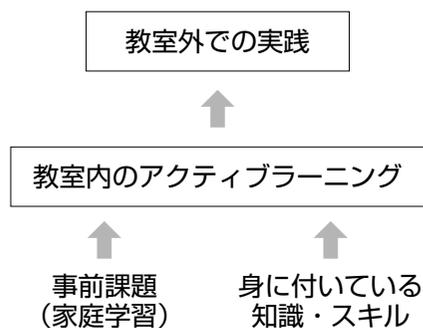
ALという教育方法を中高の授業で活用するには、以下の点に注意するとよいであろう。

- ・生徒同士の関係性が普段から安定したものになるように心がける。
- ・各年次のスキルの到達指標をCan-Doリス

トの形式で作成する。

- ・3年間(中等教育学校の場合は6年間)で活動をより高度化させる指導計画を立てる。(例 同じディベートにしても、中学3年で行うものと高校3年で行うものはより高度になっていること)
- ・課題は正解のないものを中心に与える。その内容に関する知識、必要な英語表現がある程度インプットできているように計画する。予習をさせるのではなく、活動が成立するための事前課題(assignments)を与えることも必要。
- ・英語の4技能のうち、2技能以上を統合した活動(とくに「話す」か「書く」のいずれかの技能を取り入れたもの)を用意する。
- ・授業で行った活動をベースに、教室の外で体験できる場を毎学期用意する。

図 英語指導におけるALの理想



### 引用文献

- 河合塾編(2011)『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか』(東信堂)
- 溝上慎一(2015)「第1章【アクティブラーニングの現在】アクティブラーニング論から見たディープ・アクティブラーニング」松下佳代・他編著『ディープ・アクティブラーニング』(勁草書房)
- 文部科学省編(2009)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(文部科学省)

# 英語科における Active Learningの すすめ

関東学院大学  
金森 強

## はじめに

思考力、判断力、表現力を高めるためには、知識を享受するだけの学習ではなく、学習者自らが課題を見つけ、課題解決のための判断材料を収集し、仲間との議論や協働学習を通して考えを深め、判断をし、解決策を実行する機会をもつことが大切となる。その過程を通して、社会や実生活につながることでできる総合的、かつ立体的な「知」の確立がなされたり、実践のための「技能」を習得したり、また、身につけた知識と技能を社会において適切に用いる「姿勢や態度、価値観」の育成が可能となるのである。このような学びを深める指導方法としてActive Learningが注目されている。

## 1. Active Learningの効果

Active Learningに関する研究は、数式や理論的概念を多く扱う理工学系の学部において多く見られる。この手法による授業を受けた学生は、講義中心の教育を受けた場合と比べて、専門を変える学生の数が半分に、退学する学生数が1/3になったという報告もなされている。

仲間達とディスカッションや協働による研究・実験を進め、理論・知識を具体的な事象に用いる体験をもつことで、講義では得ることのできない「深い学び」が生まれるという。理論的概念を学ぶことや高度な技能を身に着けることの意義を知るとともに、多面的思考をもつことの大切さを知る機会を得、研

究分野への興味が強くなり、学びの志向性が高くなるわけである。

それでは、英語科におけるActive Learningにおいて留意しておくべきことは、何なのだろうか。

## 2. Active Learningの特徴

以下は、Active Learningによる指導の特徴である。

- ・学びへの意欲を引き出すブレンストリーミング活動：リーディングや講義の前に行い、学習活動への興味を引き出すと同時にスキーマを活性化させる活動を行う。
- ・ペアやグループによる協働による学び：ロールプレイ、ディスカッション等の活動形態をとる。
- ・実社会につながる課題設定：学習者の生活・将来につながる目あてを設定する。
- ・表現活動の実施：エッセイライティング、ディスカッション、スピーチ等
- ・振り返り活動：リフレクションの時間をもつことで「気づき」を促す形成的評価を実施する。

英語授業においては、言語活動をPre, While, Postの3つに分けて、リーディングやリスニング等の内容に関するスキーマ作りのための活動、ペアやグループで行うロールプレイ、ディベート等の活動、エッセイライティングやスピーチ等の表現活動を実施することから、そのまま、Active Learningが行われていると考えてしまいがちであるが、必ずしもそうであるとはいえない。

## 3. 協働学習が成立する手立ての重要性

Active Learningでは、ペアやグループによる協働学習：Cooperative Learningが重視される。大切なのは、「競争」ではなく、「協力」が生まれることにある。英語授業に「競争」を持ち込み、言語活動の活性化をねらうようなことが見られるが、その場合、言葉・

コミュニケーションとしての言語使用にならないことが多く、学習者間にScaffoldingが生まれる環境作りも難しくなる。協力しながら学ぶ体験の提供こそが大切なのである。

効果的なリフレクション活動が質の高い協働学習を生み出す。振り返り表に工夫をし、学習者が各授業や単元の日あてにふさわしい学びができたかどうかについて、自己評価や相互評価を行うことで、仲間との学び合いが生まれるようにすることが肝要である。

#### 4. 「気づき」から生まれる Active Learning

広島県尾道市立日比崎小学校では、教師たちの自主的な取り組みから、台湾の小学校とICTを活用した交流活動が始められている。

スクリーンの向こうの友達に自分達の事をしっかりと伝えるために大切なことは何か、声の大きさ、ジェスチャー、顔の表情、話すスピード、絵・写真の提示法等、子ども達は考え、工夫をしながら、より良いコミュニケーションの方法を探っている。

また、振り返り活動を通して、伝えることの難しさや、相手の言葉に耳を傾けて聴くことの大切さ、英語が伝わることの達成感、コミュニケーションの楽しさ、学んでいる英語が海外の人とのコミュニケーションに使用できるという事実等、多くのことを学んでいる。

このように学習者が「考える」「気づく」授業こそがActive Learningの神髄であり、「気づき」を生み出す教師の手立てがポイントとなるのである。大田区立志茂田小学校（小林美智教諭，2013年当時）は、教室に大きな「きづきの木」を貼り、子ども達の「気づき」を葉の形をした短冊に記して貼り付けることで、英語、コミュニケーションについて「考える」「気づく」指導を行った。この「きづきの木」が指導者側にもActive Learningを意識させる効果を生むことになったことはいうまでもない。

#### 5. 英語科でActive Learningを 実施する際の留意点

##### ・Active な活動を促す教師の指示，発問

各活動の前の教師の指示や発問で、読む/聴く/話す/書く/関わる活動に興味をもたせるとともに、音声、言語形式・構造、内容の何を意識しながら活動するのか、活動の目的をしっかりと伝える。

##### ・Cooperative Learning

豊かなコミュニケーションを生み出すために学習者間に協力・学び合いが生まれる活動を提供する。コミュニケーションの質を意識した「関わり」を生み出す英語使用の機会を作る。

##### ・実際の社会につながる目あての設定と評価

学んでいることが社会や自身の生活場面に如何につながるかが伝わるように、目あての設定を行う。Can-Do リストを用いた自己評価を通して形成的評価を実施する。

##### ・効果的な省察活動

活動の終わりや途中に言語活動やコミュニケーション活動の目的や意義、学び方を意識させる振り返りの時間を取ることで、「考える」「気づく」ための時間をもつ。

##### ・既習の言語材料を活用し発信する活動

ディベート、ディスカッション、インタラクティブ活動等を通して、自身の考えや感じたことを表現する活動をもたせる。その際、テキストに用いられている英語をそのまま記憶し使用するのではなく、内容や自分の考えを自身の言葉で、summarizeしたり、paraphraseして発信したりする機会を与えるようにする。

#### おわりに

Active Learningでは、教師の発問や指示が重要な鍵となる。お決まりのクラスルームイングリッシュが使えるかどうかではなく、指導案、教材開発がしっかりとできているかどうかにかかっている。テンポの良い見せる授業ではなく、気づきを生み出すメリハリのある授業が期待されるのである。

## 『英語科における アクティブ・ラーニング』 ～長期目標を見据えて～

千葉市立幕張中学校

ただし  
土谷 匡

次の学習指導要領のキーワードとして「アクティブ・ラーニング」が注目されている。時代の流れを考え、我々の教育も日々変化を求められる時代となった。

目覚ましいITの進化を受けて、十数年後には、現在ある職業のうち、人間が行う必要のない仕事も多数あり、そのすべてがITにとって代わられるという話もある。つまり消滅していく職業があるということである。

我々教師の仕事はどうであろうか？ とかく英語科の教師の必要性はあるのだろうか？ IT化により、翻訳機能が目覚ましい技術革新を果たし、生徒たちは英語を学ばずとも、自動で母語を外国語に変換してくれる技術を活用し、海外の人たちと会話を楽しむことができる時代がすぐそこまでやってきている。実際に数十年前に比べれば、身近な携帯電話のアプリなどでも、翻訳機能などは目覚ましい発展を遂げている。今後さらに技術革新が進んでいけば英語を学ぶ必要性が低くなり、生徒たちの学習意欲の低下、さらには学校で英語を学ぶことすら必要ないのではという流れが生まれてくる可能性もある。

先程の十数年後に消えていく職業の話に戻すと、逆にITの進化によって失われることはないと考えられる職業もあるという。それは人の心に働きかける職業や、常に最先端の技術を扱う職種だそう。学校という空間、同じ学習者が集う場所の利点を最大限活かし、生徒たちの心を動かし、興味関心を高めるような働きかけをする授業を展開することが大切であり、我々教師は常に授業の在り方

について考えていく必要があると感じる。

そのひとつの考え方が「アクティブ・ラーニング」である。それでは、英語科としては、どのような取り組みが考えられるだろうか？ 実は英語科においては、特別目新しいことはないように感じる。一方通行の知識偏重型の授業からの脱却、講義形式・一斉授業のスタイルから、ペア学習やグループ学習を取り入れながら学習形態を変えていく、生徒たちが能動的に学習を進めていく工夫が必要だと言われている。どれもこれも英語科の多くの先生方が、もうすでに取り組んでいることであろう。大切な視点としては、「英語の学習者」から「英語の使用者」への転換であろう。学ぶだけならば、ITの進化に伴い、インターネットで検索をすれば英文法について、いくらでも知ることができるが、「英語の使用者」という点で考えれば、もちろん学校や授業という空間でしかできないことがたくさんある。これらの利点を十分に活用した授業を展開していくことが大切であろう。しかし忘れてはいけないのが、英語科においては十分なインプットが必須である。これなしでは、アウトプット、発信型の授業を展開することは不可能である。バランスを上手に考えることが我々教師の腕の見せ所である。

このあたりの考え方は、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定の発想と似ている点がある。我々教師は長期目標をしっかりと見据えて、日々の授業を組み立てていく必要がある。その中で、いかに生徒たちが活き活きと活動し、しっかりと英語の力が身についていく仕掛けをたくさん用意することが大切であろう。

それでは具体的に現行版ONE WORLDの教科書で実践を考えていくとする。今回は3年生の教科書に絞って考えてみたい。我々教師が長期目標を考える際には、最終的なゴールを決めることが大切だ。3年生の教科書の最後には、Unit 3で「ディベートで自分の意見を述べることができる」という単元目標が設定されている。これは学習指導要領でいう

と、「イ 話すこと」の中の「(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること」に該当する。この目標に向かい、生徒たちに実際にディベートをやらせようと考えた時に、どのような表現を使わせたいのか、どのようなディベートを生徒たちにやらせたいのか、そのためにはどのような指導が必要になってくるかを考える。また、最後のUnitのみで指導をするのではなく、最終的なゴールに向けて様々な場面で、色々な活動を通して徐々に身につけながら指導を進めていく必要がある。3年間の最後のゴールを「意見を述べ合うということ」と設定したならば、この目標に向かって、様々な活動をUnitごと、Lessonごとにちりばめて、力を養っていく『種まき型』授業を展開していくことが大切である。これはまさに「CAN-DOリスト」的な発想であり、そこに、「アクティブ・ラーニング」の視点である学習形態の工夫を取り入れ、生徒たちが生き活きと学び、「英語の使用者」としての活動を取り入れていきたい。

では、具体的に最終ゴールに向けた『種まき型』授業のアイデアを考えていく。まずはUnit 1 Lesson 1で、京都・奈良への修学旅行の話題がある。レッスンの最後には、自分なりの「おすすめスポット」を紹介する記事を作成し、意見交換をする。発表を聞いた後、自分ならばどこに行ってみたいか、そしてなぜそう感じたのかの理由を伝え合う。

次にLesson 2 Taskでは、自分の住んでいる町で、何回か行ったことのある場所の中から、お勧めの場所や食べ物を紹介する活動がある。この活動を活かし、生徒たちの意見交換の場面を設定する。

さらにLesson 3 p. 39「Let's have a chat!」には、「理由をつけて意見を言ったり、相手の言ったことに同意してみよう」というコーナーがあり、まさにディベート・意見交換をする際に必要なフレーズや考え方を学習することができる。教科書の中でも小さく扱っている箇所なので軽視しがちだが、最終的な

ゴールを意識しながら、今何をしていくべきなのかという発想を持っていれば、扱ひ方が変わってくるだろう。

そしてUnit 1 Project「自分たちの町のガイドブックを作ろう!」の活動でも、作成して終わりではなく、作成後は発表をし、それに対して意見交換をする場面を設けることが大切であるように感じる。

また、Unit 2 Lesson 4では地雷について触れている。話題としては深く、扱っている語彙も特殊なものが多い。ここでも同様にレッスン最後に「地雷撤廃についてどう感じるか」のようなテーマで意見交換をしても、なかなか深まりが難しく、さらには語彙の問題も解消できない。十分なインプットが必要であると考え、このレッスンでは地雷撤廃に関連した同じような英文を読んでみる、読んだ感想を簡単な英語で書いてみる、などのように、教科書から一歩進んで活動を広げていくことも大切である。

そして、Unit 2 Lesson 5 Part 2では、ノート型の小さなコンピュータの紹介をするコマercialがある。言語材料としては関係代名詞を扱っている。このレッスンが終わったら、オリジナルの商品を考え、紹介するコマercial記事を作成し、互いに紹介し合う。そして発表を聞いて、自分ならばどちらの商品の方がよいか選び、その理由についても英語で語り合う。

このような発想で最終ゴールに向けての『種まき型』授業を考えていくと、3年生の教科書には様々な題材が含まれており、単に教科書の学習で終わらずに、そこから発展できる内容がたくさん含まれている。

我々が長期目標を見据え日々の授業を考えていくだけでも目の前の題材の活かし方が変わってくる。学校でしかできないこと、授業でしかできないことを考え、能動的な学習を促していきたい。

# 小・中学校の教員をつなぎ、学びを広げる

～KIC：高槻市教育研究会小学校外国語活動部～

同部顧問 高槻市立北清水小学校 中西 浩一

高槻市は大阪府の北部にあり、人口約36万人、幼稚園22園、認定子ども園1園、小学校41校、中学校18校の中核市です。

KICとは、

Kids' English and  
International

Communication based on English

の頭文字を取った呼称名で、正式には高槻市教育研究会小学校外国語活動部のことです。今年度の会員は57名で、石上達矢部長のもと年間8回の部会の他、今年度から夜の自主勉強会「TALK」も立ち上がり、毎回積極的な活動が行われています。

## 1 設立の経緯と目的

平成15年度の「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」実施に伴い、本市においても中学校英語科教員を対象とした集中研修が始まり、英語教育の大きな転換期となりました。小学校についても各校1名を対象に集中研修が行われ、「英語活動」がすべての小学校で始まりました。

KICは、平成15年度に、当時市の英語活動の研究指定を受けていた小学校教員たちが中心となり、その産声をあげました。

まだ混とんとした状況の中、「21世紀を生きる子どもたちのために、どんな英語教育をすればいいのか」、「実際の授業はどうあるべきなのか」等、毎回熱い議論が交わされながら、手探りの実践が始まりました。合言葉は「子どもたちの未来のために」、「小学校教育としての英語教育を」その基本は、世代が代わり、若手中心となった今も変わりません。教育研究会としての運営も、他の教科等では「持ち回り」で行われる部会が多い中、KICでは当初から、そして今も「役員制」で主体的に運営されています。

## 2 KICの活動

平成27年度年間活動計画は次の通りです。

- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 5/13  | 役員及び年間計画等の承認         |
| 6/10  | 公開研究授業（中学校英語部会共催）    |
| 8/18  | 学識者を招聘しての講演&workshop |
| 9/ 9  | 学習指導案検討              |
| 11/11 | 中学校英語部会公開研究授業（共催）    |
| 12/ 9 | 学習指導案検討              |
| 1/15  | 公開研究授業・研究協議          |
| 2/17  | 公開研究授業・研究協議          |

今年度は、KICの研究授業とは別に、中学校英語部と連携して、年間2回の研究授業を予定しています。また、経験年数の浅い教員が急増していることから、もう一度原点に戻って、『Hi, friends!』と高槻市のモデルプランをベースに「誰でもできる普通の実践を広げる」とともに、中学校の英語科教員に小学校の授業をもっと知ってもらい、中学校での実践につなげようと意気込んでいます。

## 3 実践の紹介

6月10日に行われた研究授業を紹介します。当日は、少しでも教員が参加しやすいように、会場を市内2校に分け、同じプランで行われました。（高槻市立西大冠小学校：石上達矢教諭、同清水小学校：和田博之教諭）題材は『Hi, friends! 2』Lesson 3 “I can swim.”です。

本単元では、I can～. I can't～.の表現を用いてShow & Tellで相手に自分のことを伝えることをタスクとしました。子どもたちは、小学校入学以来5年間一緒に過ごしていますので、お互いをよく知っています。しかし、そんな中でも知らなかったクラスの仲間

の意外なところを再発見できるように、工夫をしながら授業は進みました。子どもたちは「え〜!?」「そうやったんや!」と、お互いに知らなかった一面を知ることができ、とても意味のあるコミュニケーション活動になりました。子どもたちの、何とかして自分のことを伝えようとしている姿や、友だちの意外な一面を一生懸命聴いている様子がとても印象的でした。

外国語活動 ふりかえり。

④ Grade Class ( ) No ( )

Name ( )

Lesson 4 I can swim!  
自分の「できること」「できないこと」を  
カードを使って自己紹介しよう!

自分の「できること」「できないこと」を適切に伝えることができましたか?			
英語で話すように頑張った。	得意な英語をたくさん使った。	ジェスチャーを使うなど工夫して伝えるようになった。	うなずくなど伝わりやすい動作を使った。
自分の「できること」「できないこと」の言い方がよくなりましたか?			
得意な英語を上手に話した。	上手に話した。	みんなと一緒に話そうと頑張った。	自分の得意な英語を話した。

その他、

また、本単元で初めて※「小学校英語Can-Do評価尺度活用マニュアル」を参考にした振り返りを作成しました。これまでの振り返りでは「うまく言えなかった。」等、自信のない子どもほど、どうし

ても自己評価が低くなりがちでしたので、子どもたちが「頑張ってきた」と実感できれば、という思いで試行されたものです。結果子どもたちは「次はこんなジェスチャーを付けてみよう」等工夫を凝らしながら積極的に取り組み、「伝わった」という実感を持つことができたようです。今後も効果的な自己評価にいかしたいと思います。

当日は、中学校の英語科教員も参加してくれました。授業後の研究協議では、小・中学校においてつけるべき力や、6年生が「読み・書き」に興味を持っていること等から、文字の取り扱い方や指導法等について議論を深めました。



両会場とも小・中学校教員による協議を通して、小・中学校が連携しながら、英語でコ

ミュニケーションをしようとする態度や英語学習に対する意欲を育てていくことの重要性を再確認しました。

## 4 KICの存在意義

### ①小学校の現状と課題

現行の学習指導要領における小学校各教科等の授業時間数は、国語1461時間、算数1011時間、体育597時間、音楽358時間、道徳209時間、家庭115時間…外国語活動70時間です。全体に占める割合は、国語の26%に対して、外国語活動は1%に過ぎません。

また、本市には約1,200名の小学校教員がいますが、過去10年間毎年100名前後の初任者が採用されており、講師の数も1割を超えています。「教職経験年数10年未満の教員が10人以上いる小学校」の割合は、平成26年度高槻市80%、大阪府39%、全国11%となっています。

さらに、小学校は教科担当制ではないため、教員の市の教育研究会の所属についても毎年変わります。つまり、多くの教員にとって、毎年「初めての外国語活動」が続いているのが現実なのです。

### ②教員をつなぎ、学びを拡げる

このような現状の中、教育委員会や教育センターが行う研修だけでは、外国語活動の充実は難しいことは明らかです。日本の教育を支えてきた「授業研究」を推進する場の1つとして、今後各市町村における「教育研究会」が一層重要になると考えられます。全国に「外国語活動部」が立ち上がり、国語や算数等と同様に、各都道府県で研究や実践が繰り返されていく日も近いのではないのでしょうか。

本市においては、KICがその役割を担うこととなります。小学校に限らず、中学校も含めて、教員同士をつなぎ、学びを拡げる場として、今後も一層の充実を図っていきたいと思います。

※参考：泉恵美子・萬谷隆一・アレン玉井光江・田縁真弓・長沼君主「小学校英語Can-Do評価尺度活用マニュアル」(2015)

# つなげたい！ 英語活動にかかわる人たちの想い

墨田区立第二寺島小学校 杉浦 栄美

## 1 私と小学校の英語とのつながり

「すごく英語が得意！」だったわけではない。高校生の時には、ほぼ英語の勉強をしていない。けれども、大学3年の時、「これからは、やっぱり英語ができないとね。」と、夏休みの1か月間、アメリカのロサンゼルス近郊にホームステイした。それから大学卒業後、6年ほど民間企業に勤め、貯めたお金で1年間英語を勉強すれば話せるようになると思っていて会社を辞めた。半年間全日制の英会話学校に通い、そのつながりでアメリカのテネシー州の中学校にインターンとして日本文化を紹介する授業を担当したが、ペラペラに話せる日なんて来なかった。ある日、中学校の校長であるホストマザーと夕食をともにしている時、「日本人は、箸でどうやってステーキを食べるの？」と質問された。切られていないステーキと箸について考えたこともなかったもので、言葉に詰まった。すると、「やっぱりナイフとフォークじゃないと切れないわよね。」と鼻で笑われた。本当に腹が立った。でもその後、周囲と親しくなるにつれ、質問される機会が増えた。「なぜ、日本人は醤油を使うの？」とか「私はこのOneidaの町が大好きだけど、Emiの町はどれくらいの大ききなの？」しかし、それらに全く答えられなかった。私自身が自分の国や自分の町に誇りをもっていなくて、人に説明できるほどの知識になっていなかったからだ。恥ずかしかった。特に、中学生のキラキラした瞳が、答えられない私を見て失望の色に変わる時…

日本で過酷な高校受験のまえに、義務教育である小・中学校の6年間で少なくとも2回、自国の地理や歴史について徹底して覚えてきたはずである。「これではいけない！英語を使えるようになるためには、まず小学校から自国の文化についてしっかりと意識して学習しなければならない。このことを子ど

もたちに伝えなければ。」その想いが、私が小学校の教員になる決意となった。そして、教員試験の模擬授業として作成した指導案は、英語を使って『箸・Chopsticks』のよさを伝える内容になった。この指導案は今現在も使い続けている私の宝物である。



▲実際に授業で使った道具

## 2 小学校英語の授業づくりとのつながり

2020年の外国語活動、完全教科化へ向けて動き出している変化は、激動に近い。それでも、確実に目標に向かって前向きな小学校の教員は多く、さらに授業もおもしろい。

それはなぜだろう？そこには、総合的な学習の時間の授業づくりを乗り越えてきた教員の底力が大きく関係している。総合的な学習の時間と外国語活動の目標や指導計画の作成には酷似する点がある。まず一つめは、「協同的に取り組む態度」（総合的な学習の時間。以下〔総〕）と「コミュニケーションを図ろうとする態度」（外国語活動。以下〔外〕）である。このそれぞれの目標を通じて、子どもたちの課題点がコミュニケーション能力にあることをしっかりと意識することができた。次に、「横断的な学習」（〔総〕）と「国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用する」（〔外〕）である。視野を広げるために、教科にとらわれない考え方が大切だということを認識することができた。どちらも苦しかった授業づくりではあるが、総合的な学習の時間で英語以外の指導案を作

り続けた教員は、何もないところから、各教科を取り入れておもしろい授業をつくるのが体に染みついてしまったわけである。

### 3 想いのつながり

苦勞し、熱い想いをもった教員の方々が、テキストを作っている。私が働いている墨田区では、スカイツリーが完成する前の、今から5年前に、各自治体に任されている学びの活用として、『SUMIDA ENGLISH 1・2』を完成させている。指導書もCD-ROMもついていて、1は5年生に、2は6年生に配布されている。5・6年の授業時数が年間35時間から50時間まで増やせるようにと作られていて、充実度は高い。提示されているフレーズが一方通行にならないように、相手の気持ちを聞き返せる工夫がなされている。また、外国人観光客の増加を見込み、自分たちの町をきちんと伝えられるようにとの想いも詰まっている。例えば『英語ノート』に始まり、『Hi, friends! 1・2』に至っても例外ではないであろう。

最近、「inputとoutput」という言葉をよく目にするが、指導方法を巡っての意見も熱い。私が目にしてきた意見の中で感じたことを記しておく。

☆input…英語を手段として『聞く』ことを中心とした活動

○聞かせる内容を創意工夫しないと通じないので、授業づくりの力がつく。

×何をもって「聞いた」なのかがわかりづらく、評価しづらい。

☆output…授業時間内に『発話する』ということを大切に活動

○英語を発話するので、話しているように見えるし、子どもたちの「言えた」という満足度は高い。

×何をもって「話せる」につながる活動なのか、リズムなのか、量なのかがわかりづらい。

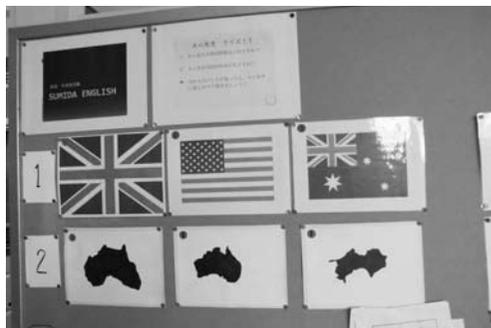
「思ったことを英語で話せない。」と感じている人は多いが、話す勇気がないからなのか、話しかけられて内容を聞き取れないから

なのか、答えられる素地が育っていないからなのか。お互いを否定せず、よいところを認めるという姿勢を試されているのは、実は大人の方なのではないだろうか。

### 4 捨てる指導案なんてない!

「英語を話せるようになりたい!」という子どもたちの想いをずっと持ち続けてもらうために、次の項目をチェックし、足りていない部分だけ変更してほしい。

- ①子どもたちが、自分の想いを表現できる場があるか?
- ②子どもたちが自分の頭で考えて、納得できたり、初めて知った文化の違いに驚いたりする場があるか?
- ③活動に入る指示が英語表現でなされている場があるか?
- ④単元中に、一人の人間としてのALTの姿が盛り込まれている場があるか?



▲ ALTの出身国を知るためのクイズ

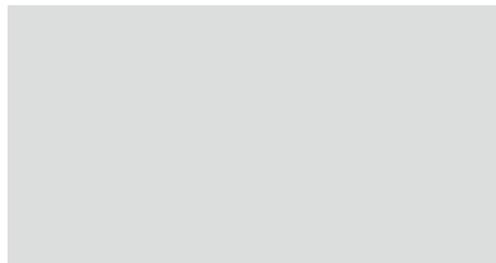
### 5 おわりに

数年前、月一回開かれる小・中学校の英語を担当する教員の出張会議で、涙が出そうになったことがある。それは最後の回だからこそ、中学校の教員が小学校の教員に向けて熱く語ったメッセージである。

「英語が得意じゃなくていい。発音が下手でもいい。技術的なことは、中学校に入ってから私たちがしっかりと教えるから、とにかく、どんなことにもすぐにあきらめない子を送り出してほしい。」と。信じませんか。子どもたちの幸せを願う気持ちに変わりがないことを。

## You've got a helluva kid here.

●津田塾大学大学院 野田 小枝子



ナット・ファクソンとジム・ラッシュが監督・脚本を務めた2013年製作映画『プールサイド・デイズ』(*The Way Way Back*)は、車の中のシーンで始まり、車の中のシーンで終わります。車に乗っているのは、離婚した母親パムとその息子ダンカン、母親のボーイフレンドでこちらも離婚した男性トレントとその娘ステフの4人です。

単純に言ってしまうと、この映画は14歳のダンカンがひと夏の間に成長し、そのことで、まわりの世界が変わっていく話です。

トレントが運転席から、ダンカンに自分に10点満点で点をつけるとしたら何点かと聞くところから映画は始まります。車の中で目を覚ましているのはこの2人だけです。つまり、トレントは母親が聞いていないところで、ダンカンに言葉の暴力をふるっているとも言えるのです。

「何点でもいいから言ってみる。」と言われたダンカンが、「6点。」と言うと、「俺の見るところ、お前は、3点だ。」と決めつけるトレント。スティーブン・カレルが憎まれ役を好演しています。

この始まりの場面が象徴的です。結婚して父親になったときのために、ダンカンを自分の価値観で厳しくしつけようと思っているトレント、トレントを失いたくないために息子が我慢することを期待している母親、ダンカンの存在

をうっとうしいものとしか感じていないトレントの17歳の娘のステフとの海辺の別荘での生活は、ダンカンにとっては苦痛以外の何物でもありません。

ビーチでの夏を謳歌する大人たちに対して、ダンカンの夏は最悪です。皆で夜の浜辺に繰り出していく大人たちを窓から眺めながら、母親たちの散らかしていった食器を一人片づけるダンカン。

ある日ガレージで見つけた女の子用の自転車で、ダンカンは外の世界に飛び出し、娯楽プール施設 (water park) Water Wizzに入り込んでほんやりと過ごします。そこにサム・ロックウェル演じるプール施設の従業員、オーウェンが現れて、ダンカンにここで働かないかと声をかけます。

働き始めると、ダンカンはたちまちオーウェンや少し変わった仲間たちの人気者となり、全く違ったダンカンとしてPop'n Lockというニックネームまでできて、家にはなかった居場所を見つけることになりました。

隣の別荘に住む女の子とも仲良くなり、一緒にWater Wizzで一日を過ごしたりするようになります。

そのうち、トレントが浮気をしているのに気づいたダンカンが、「かあさん、逃げないで何とかしろよ。」とトレントやほかの大人もいる場所で訴え、トレントとけんかになるところを止められるという事件が発生します。

それがきっかけで母親は別荘から引き上げることになるのですが、結局トレントと別れようと思っているのではないことがわかり、ダンカンは失望します。

別荘からの途中、Water Wizzにさしかかったとき、ダンカンは車を飛び出し、オーウェンに別れを告げに行きます。

ダンカンを追ってWater Wizzに入った母親は、従業員としてにこやかに写ったダンカンの写真を見て、初めてダンカンがそこに居場所を見つけて生き生きと毎日を過ごしていたことを知ります。

そこにオーウェンが現れ、ダンカンの母親に紹介された後、母親に向かって言ったのが今回「とっておきの英語」に選んだセリフ (You've got a helluva kid here.) です。

helluva (hell of a) というのは文字通り解釈すると、He leads a hell of a life. (ひどい生活をしている。) のように「ひどい」という意味ですが、それから転じて、She is a hell of a singer. (大した歌手ですよ。) のように「大した、すばらしい」という意味を表せます。ここでは、「息子さんはすごい、最高ですよ。」とでもいう表現です。「こんなすばらしい息子さん、ほかにないですよ。大事にしてください。」というメッセージが含まれています。

オーウェンを介して、初めて母親はかけがえのないダンカンの価値に気づくのです。

さて、最後のシーンでどうなるかですが、車の中で母親はあることをします。それにより、これから彼女がどう生きていくかが示唆されます。

この映画を見ていると最初の場面からダンカンに感情移入してしまいます。親でもあり教員でもある私にとっては、オーウェンの一言は本当に心に響きます。

居場所のないダンカンにオーウェンは居場所を作ってくれました。

どんなに表現するのが下手で、取り柄のないように見える子どもでも、その子のいいところが伸ばせる環境に置いてあげられれば、その子は生きられるはずです。

今置かれている環境において、ある子どもについて、周りの人やほかの子どもたちみんなが「あいつは本当にダメなやつだ。」と思っていたとしても、私たちはその子にとってのオーウェンに、勇気をもってなる義務があるの

だと改めて教えてくれた映画でした。

「とっておきの英語」は、教員の立場、親の立場から選んだのですが、もし、中学生の立場から選ぶとすると、きっと次の場面からのものになると思います。

トレントとけんかしそうになったダンカンは、オーウェンに話をしに行きます。

トレントに3点と言われたことなどを話し、憤るダンカンに、オーウェンは次のように言います。

*Owen:* You gotta go your own way.

「(そんなことに耳を貸さず) 自分らしく生きなければだめなんだ。」

これが、ダンカンへのオーウェンのメッセージです。

最後に、この映画のタイトルについて。the way backは、all the way backなどallを伴うと「はるか昔、ずっと後ろ」などの意味になります。この映画では脚本の最後のところで...enjoy the view from the way, way backという表現があるので、「車の座席の一番後ろ」を意味することが分かります。

車の中での座席の位置は、しばしば家族の中での立ち位置と同じになります。運転席と助手席に父親か母親、後ろの席が子どもです。

この映画のワゴン車の場合、真ん中の席 (back seat) があってさらにその後ろに折り畳みの席があり、それに座ると後ろを向いて座らなければならないことになります。真ん中の席をステフが占領しているため、ダンカンは一番後ろの座席に座らざるを得ません。つまり、この映画のタイトルは、家族の中でのダンカンの位置を象徴していると言えるでしょう。

最後の場面で座っているのは、もう新しいダンカンであることは間違いありません。リアム・ジェームズ演じるダンカンが最後に見せる自信に満ちたわずかな微笑みが、私たちにそれを教えてくれます。

# The Silver Screen: Laughter and Tears

Peter J. Collins  
Tokai University

My friends and family all know my rule – if we go to a movie, I want to get to the theater early. I love digging into my popcorn as I watch the audience file in and wait for the curtains to open. And while some people prefer to time their arrival so that they miss the previews, I want to catch them all, whether they're for slapstick comedies or fish-out-of-water stories. I even like the ones for chick flicks and guy-cry movies!

We're all familiar the basic movie genres; action, drama, musical, adventure, and **sci-fi** (science fiction) are just a few of them. Each of these genres can be further categorized into dozens (and dozens) of sub-genres. Take comedy, for example, which includes sports comedies, political comedies, parenthood comedies – even military comedies and zombie comedies.

Other genres, however, are not quite as self-explanatory. One example is **screwball comedies**, a term that emerged in the 1930s. A “screwball,” was originally an erratic kind of cricket or baseball pitch. It's now an adjective for movies that feature farcical situations, unpredictable characters, rapid, witty dialog, and happy, though unconventional, endings. Classic screwball comedies include *It*

*Happened One Night and The Philadelphia Story.*

Another time-honored comedy genre is **slapstick**, or physical comedy. If you see a comic character falling out a window, getting blown up in a laboratory, or bitten in the rear end by a giant dog, you're watching slapstick. *Home Alone* and *Mrs. Doubtfire* are popular examples. The origins of the word suggest that this is not the most sophisticated kind of humor; a slapstick was originally a kind of paddle circus clowns used for hitting each other. Still, many slapstick movies find themselves on everyone's list of **guilty pleasure movies**.

Is there a movie that the critics and the public hated, but you secretly love? If so, you have a guilty pleasure movie! You may be ashamed to admit that you enjoy re-watching low-budget **romcoms** (romantic comedies) or **gross-out comedies** filled with **gross** (disgusting) toilet and sex jokes. These days, however, if share your secret on social media, you're likely to find a group of other people who share your guilty pleasure!

My own is 1967's *Valley of the Dolls*, which has been recognized by so many people as a guilty pleasure that it has achieved **cult film** status. This term was coined in the 1970s to define films that have, against all odds, acquired a **cult following** of dedicated fans who find out everything they can about a movie and its production. Both the critics and the author of the original book *Valley of the Dolls* hated the movie and wished it would simply go away. But almost 50 years later, there are **collector's editions** coming out on DVD that include multiple “**making of**” special features sharing **behind-the-scenes** stories from the original actors. On my copy,

various **audio commentaries** explore the impact the movie has had on generations of fans.

For me, the main attraction of *Valley of the Dolls* is its **campy** quality. Although the movie was made in all seriousness, the plot is laughably unrealistic, almost every line of dialog is unintentionally funny, the three main actresses **chew up the scenery** (overact), and their hair and clothes are ridiculously **over-the-top** (flamboyant). Other **camp classics** include the movies *Mommie Dearest* and *Showgirls*. Although both are now iconic, their stars refuse to talk about them in interviews, perhaps out of embarrassment.

**Fish-out-of-water** movies are another easily recognizable comedic genre. The idiom itself is quite old; in the late 1400s, Chaucer used it in *The Canterbury Tales*. It describes people who find themselves struggling to adapt to a new environment, often with humorous results. Movies like *Pretty Woman* or *The Devil Wears Prada* can be seen as fish-out-of-water stories; the main characters in both must decide whether to try and adapt to their new surroundings.

At the other end of the spectrum are movies that evoke tears, rather than laughter. In the 1700s, plays in which the actions and dialogs were interspersed with music were known as “melo drame,” drawing on the Greek “melos,” meaning “song.” By the time the major movie production companies were up and running, the word **melodrama** was being used to describe movies in which sentimental storylines were prioritized over realistic characterization. The word **melodramatic** has since acquired negative connotations; it suggests **larger-than-life** (exaggerated) emotions and **one-dimensional** (simplistic)

views of how humans interact with each other.

Other terms have emerged to describe melodramas; since the 1920s, movies that made audiences weep have been referred to as **weepies**. More recently, critics have labeled certain films **two-handkerchief** and even **four-handkerchief movies**, referring to the number of handkerchiefs audience members need for their tears. Another common term for films like *Love Story*, *Beaches*, or last year’s *The Fault in Our Stars* is a **tearjerker**, a movie that pulls the tears from an audience’s eyes.

Because so many tearjerkers are targeted to female audiences, these films are commonly called **chick flicks**. Women have been called “chicks” for over 100 years, and “flicks” is a slang term for movies, since the images from early projectors seemed to flicker. Male critics continue to dismiss chick flicks as **fluff** and not worthy of serious discussion. Another genre has recently been identified, however: **guy-cry movies**. These may be sports-, business-, or war-themed films targeted at male audiences that contain emotional content. Movies ranging from *Field of Dreams* to 2013’s *The Monuments Men* fall into this category.

The next time I’m in the movie theater, popcorn in hand, I know I’ll be watching the previews and weighing the **coming attractions**. A screwball comedy or a two-handkerchief film? A romcom or a weepie? The **silver screen** offers both laughter and tears!



## Q&A 中学英語 指導法事典



現場の悩み  
152に答える

樋口忠彦・高橋一幸 編著  
A5判 304ページ  
定価 2,800円+税

多くの教師がつまづき困っている問題 (Q) に、解決のための考え方や方法 (A) を具体的に示す。英語の指導法・指導技術に関する情報を集大成した指導法事典！

## 田尻悟郎の 英語教科書本文活用術！



知的で楽しい活動 &  
トレーニング集

田尻 悟郎 著  
B5判 152ページ  
定価 1,800円+税

教科書本文を料理する手法と観点が満載。「独り言突っ込み」「ひねくれ者音読」など活動名のインパクトと豊かな発問のアイデアで、生徒の“クリエイティビティ”を刺激！

 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10  
TEL: 03-3238-6908 FAX: 03-3238-6960  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



英語教育 通信 ONE WORLD Info (2015年秋号) 2015年9月1日 発行

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光  
印刷：大日本印刷株式会社 発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社** 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所** 〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社** 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社** 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社** 〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社** 〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社** 〒812-0007 福岡市博多区 2-11-30 クレセント東福岡 E 室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所** 〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411